

一般社団法人

日本環境教育学会

The Japanese Society for Environmental Education

第29回 年次大会 [東京]

環境教育の根本に立ち返る—いのち、環境、人間

日本においては60年あまりの、国際的には半世紀の歴史を刻む環境教育。今日では、持続可能な開発のための教育(ESD)あるいは持続可能な開発目標のための教育(ESDGs)を世界標準とする段階にあります。今年の日本環境教育学会年次大会では、創立30周年を迎える2020年を前にして、百花斉放の環境教育の根本に今一度立ち返り、その消息を見極める議論を交流させたいと思います。

【期間】 2018年8月24日(金)～8月26日(日)

※エクスカージョンは8月27日(月)

【会場】 東京学芸大学

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

【主催】 一般社団法人 日本環境教育学会(第29回年次大会実行委員会) 【共催】 国立大学法人東京学芸大学、公益社団法人日本環境教育フォーラム(共催企画のみ)、ユネスコスクール・ネットワーク(教員セミナーのみ) 【後援】 環境省、経済産業省、国土交通省、農林水産省、文部科学省、小金井市教育委員会、小平市教育委員会、国分寺市教育委員会、東京都教育委員会(教員セミナーのみ) 【大会HP】 <http://www.jsfee.jp/members/meeting/325>

◎ 公開シンポジウムテーマ「環境教育の根本に立ち返る：いのち、環境、人間」

持続不可能な社会を持続させる私たちの個人的・社会的心性と、高度に人工化・システム化された社会と、そこで営まれる私たちの日常生活を覆う堅牢なベール。その下にある本当に大切なもの・こと、すなわち環境教育の根本を尋ねます。

【日時】 2018年 8月 25日(土) 14:00～16:30

【会場】 東京学芸大学 芸術館「学芸の森ホール」

I 部

【講演】

「日々の生活から環境教育の根本を尋ねる」

◎スピーカー

瀬瀬 あや 氏 (映画監督)

1974年東京生まれ。自由学園卒業。2010年に上関原子力発電所に反対し続ける島民の暮らしを映し撮った映画『祝の島(ほうりのしま)』を初監督。シチリア環境映像祭で最優秀賞受賞。大阪貝塚市の北出精肉店の家族の暮らしを描いた二作目『ある精肉店のはなし』(2013年)は平成26年度文化庁映画賞文化記録映画部門大賞。現在は、日本の移り行く時代の中で消えかかっている人々の営みを映像に記録し続けている。

II 部

【パネルディスカッション】

◎パネリスト



瀬瀬 あや 氏
映画監督



高橋 和也 氏
自由学園学園長



岡田 仁 氏
(公財) 基督教イースト・エイジャ・ミッション
富坂キリスト教センター総主事

◎コーディネーター

原子 栄一郎

東京学芸大学教員

◆ 瀬瀬あや監督映画作品上映会のご案内

【日時】 2018年8月27日(月) 10時から15時15分まで

【会場】 東京学芸大学 南講義棟(S棟)S410

【入場料】 各部 1,000円

【プログラム】

◎ 午前の部

10:00～12:00 『祝の島』(2010年/日本/105分)

12:00～12:15 『土と育つ子どもたち』(2018年/日本/ダイジェスト12分)

◎ 午後の部

13:00～15:00 『ある精肉店のはなし』(2013年/日本/108分)

15:00～15:15 『土と育つ子どもたち』(2018年/日本/ダイジェスト12分)